〈国語〉

伝え合う力を高める学習指導と評価の工夫

～　スピーチ学習における段階的学習・実践を通して　～

宜野湾市立真志喜中学校教諭　　伊　差　川　幸　江

目　次

Ⅰ　テーマ設定の理由……21

Ⅱ　目指す生徒像……21

Ⅲ　研究目標……21

Ⅳ　研究仮説……21

Ⅴ　研究の全体構想図……22

Ⅵ　研究内容……23

1　伝え合う力……23

2　「話すこと・聞くこと」について……23

3　「話すこと・聞くこと」のめざす段階と指導・評価……25

4　スピーチ学習……27

5　「伝え合う力」の実践の場の設定……28

Ⅶ　検証授業……29

Ⅷ　仮説の検証……37

1　具体仮説１の検証……37

2　具体仮説２の検証……38

3　具体仮説３の検証……39

Ⅸ　研究の成果と今後の課題……40

1　研究の成果……40

2　今後の課題……40

3　終わりに……40

〈主な引用文献・参考文献〉……40

<国語>

伝え合う力を高める学習指導と評価の工夫

～　スピーチ学習における段階的学習・実践を通して　～

宜野湾市立真志喜中学校教諭　　伊　差　川　幸　江

Ⅰ　テーマ設定の理由

現代の社会は国際化，情報化，価値観の多様化が急速に進展しており，日本においては少子高齢化も年々進む傾向にある。教育現場の大きな問題として，いじめや不登校があげられるが，これは，核家族化や少子化の進行，地域社会が変化する中で，言葉を交わしての意思疎通の経験が不足していたり，家庭や地域社会における人間関係が希薄化しているためと考えられる。

新学習指導要領の完全実施の下，「生きる力」をキーワードに自ら学び自ら考える力の育成をめざし，基礎基本の確実な定着，個性を生かす教育が重視されてきた。それに伴い，国語では，伝え合う力を高めることが重要であるとされてきた。人は一人では生きられない。社会生活を営む上で最も基本になる伝え合う力は今後もますます重要な力となっていく。

日頃生徒と接していても，単語のみで「先生，ノート」などと言う子や，人の話を最後まで聞けない子，自分の思いをうまく伝えられない子などがいる。また，相手の立場や考えを思いやれずにコミュニケーション不足で相手を傷つけたり傷つけられたりというトラブルも多い。やはり伝え合う力が不足していると言わざるを得ない。では，伝え合う力を高めるには何を育成するかであるが，「話すこと・聞くこと」は「読むこと」と「書くこと」よりもコミュニケーションをする上で先にくる活動であり，人と人とが互いの考えや意志を伝え合う最も基本的な活動である。従って，「話すこと・聞くこと」の領域から伝え合う力を高める研究を進めていきたい。

まず「話すこと・聞くこと」におけるこれまでの授業実践を振り返ってみると，目標を明確にした意図的・計画的授業の展開が十分ではなかった。生徒の「話す力・聞く力」の実態も把握せず，原稿メモや聞き取りメモなどワークシートの工夫やできない子への具体的な手立ても不足していた。また「話すこと」と「聞くこと」とは表裏一体であるにもかかわらず，関連づけての指導計画や評価も不十分であった。

以上のことからまず「話すこと・聞くこと」の領域で身につけさせたい力とは何かをふまえた上で，系統立てた段階的指導のあり方と評価の方法を明確にする必要がある。その上で，興味・関心を引き出す導入の仕方を工夫すれば，生徒は伝え合うことの大切さを知り意欲的に学習に参加するであろう。そして「スピーチ学習」において，段階を追ってきめ細かい指導をすることによって，「豊かに話す力」「積極的に聞く力」が育まれるであろう。さらに，伝え合うための場の設定と方法を工夫し，お互いのよさを認め合う評価をすることによって，意欲的に考えや思いを伝え合う力を高めていきたい。

このように考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　目指す生徒像

○　伝え合う意義を知り，意欲を持って学習に取り組む生徒

○　話し方と聞き方のスキルを身につけ，伝え合うことを楽しめる生徒

○　豊かに話し積極的に聞き，自分の考えや思いを意欲的に伝え合うことのできる生徒

Ⅲ　研究目標

「話すこと・聞くこと」の領域において，①興味・関心を引く導入を工夫し，②「スピーチ学習」の段階的なきめ細かい指導を行い，③発表の場と評価の工夫をすることにより，「豊かに話す力」「積極的に聞く力」を育て，意欲的に考えや思いを伝え合う力を高めていく。

Ⅳ　研究仮説

1　基本仮説

「話すこと・聞くこと」の領域において，生徒の興味・関心を引く導入を工夫し，「スピーチ学習」を段階を追ってきめ細かく指導し，発表の場を工夫し，互いによさを認め合う評価を取り入れることによって，「豊かに話す力」「積極的に聞く力」が育ち，意欲的に考えや思いを伝え合う力が高まるであろう。

2　具体仮説

(1)　「話すこと・聞くこと」のスピーチ学習の導入において，話し合いと合意形成を目的としたエンカウンターエクササイズ学習を取り入れることによって，伝え合う意義や単元学習の目標が明確になり，今後の学習に意欲的になるであろう。

(2)　「話すこと・聞くこと」のスピーチ学習の場において，①スキル学習（話し方・聞き方）②スピーチ原稿（話題選定・話材・構成メモ・原稿書き）③発表と学習段階を細分化しきめ細かく指導すれば「話すこと・聞くこと」の総合的な力が身につくであろう。

(3)　「話すこと・聞くこと」のスピーチ学習の発表の場において，グループ内発表→練り直し→本番（学級全体）と段階を追って実施し，自己評価・相互評価でよさや成長を認め合う評価をすれば，「豊かに話す力」「積極的に聞く力」が育まれ，自分の考えや思いを意欲的に伝え合う力が高まるであろう。

Ⅴ　研究の全体構想図

教育関係法規

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 学習指導要領
- 県・市教委の教育施策

学校教育目標

（1）心身共に健康で粘り強く，実践力のある生徒
（2）自ら進んでよく学ぶ生徒
（3）善悪を正しく判断し行動できる生徒
（4）明るく情操豊かな生徒

めざす生徒像

- 明るいあいさつができ礼儀正しい生徒
- 自分のよさに気づき，更に伸ばそうとする生徒
- 目標をしっかり持ち，自ら学び続ける生徒
- 読書が好きでたくさんの本を読む生徒
- 素直で思いやりがあり友達と仲良くする生徒

国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし，国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

研究テーマ

伝え合う力を高める学習指導と評価の工夫
～スピーチ学習における段階的学習・実践を通して～

生徒の実態

- 明るくのびのびとしている。
- 学級活動など協力的である。
- じっくりと深く学習に取り組むことが苦手である。
- 相手の思いを受け止める意識や聞く力，自分の思いを話す力が不十分な子がいる。

A「話すこと・聞くこと」の目標

[第１学年]

・自分の考えを大切にし，目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに，話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。

[第２学年及び第３学年]

・自分のものの見方や考え方を深め，目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに，話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。

研究目標

「話すこと・聞くこと」の領域において，①生徒の興味・関心を引く導入を工夫し，②「スピーチ学習」の段階的なきめ細かい指導を行い，③発表の場と評価の工夫をすることにより，「豊かに話す力」「積極的に聞く力」を育て，意欲的に考えや思いを伝え合う力を高めていく。

研究仮説

1 基本仮説

「話すこと・聞くこと」の領域において，生徒の興味・関心を引く導入を工夫し，「スピーチ学習」を段階を追ってきめ細かく指導し，発表の場を工夫し，互いによさを認め合う評価を取り入れることによって，「豊かに話す力」「積極的に聞く力」が育ち，意欲的に考えや思いを伝え合う力が高まるであろう。

2 具体仮説

①　「話すこと・聞くこと」のスピーチ学習の導入において，話し合いと合意形成を目的としたエンカウンターエクササイズ学習を取り入れることによって，伝え合う意義や単元学習の目標が明確になり，今後の学習に意欲的になるであろう。

②　「話すこと・聞くこと」のスピーチ学習の場において，①スキル学習（話し方・聞き方）②スピーチ原稿（話題選定・話材・構成メモ・原稿書き）④発表と学習段階を細分化し，きめ細かく指導すれば「話すこと・聞くこと」の総合的な力が身につくであろう。

③　「話すこと・聞くこと」のスピーチ学習の発表の場において，グループ内発表→練り直し→本番（学級全体）と段階を追って実施し，自己評価・相互評価でよさや成長を認め合う評価をすれば，「豊かに話す力」「積極的に聞く力」が育まれ，自分の考えや思いを意欲的に伝え合う力が高まるであろう。

研究内容

1 伝え合う力
2「話すこと・聞くこと」について
3「話すこと・聞くこと」のめざす段階と指導・評価
4 スピーチ学習
5 伝え合う力の実践の場の設定

研究方法

1 文献や資料による理論研究
2 アンケートによる生徒の実態調査と分析
3 関係する研修会への参加
4 検証授業
5 担当指導主事の助言

検証授業・分析・反省・考察

研究のまとめ・成果と課題

Ⅵ　研究内容

1　伝え合う力

(1)　伝え合う力とは

①　伝え合う力を育成する意義

伝え合う力とは中学校学習指導要領の解説―国語編―によると「適切に表現する能力と正確に理解する能力とを基盤に，人と人との関係の中で，互いの立場や考え方を尊重しながら言葉によって伝え合う力」とある。伝え合う力を，日常の言語生活や社会生活に必要な言語能力であると位置づけてその意味や意義を考えてみたい。生徒は，個々の違いを認め，互いの立場や考え方を尊重しながら言葉によっての伝え合いを，さまざまな相手やさまざまな場で繰り返していく。言葉も話し言葉としての「話す」「聞く」という行為から，言葉を「書く」「読む」という行為もあろう。その活動の繰り返しによって，まず，お互いの意志の伝達・受容が図られ，そうするための具体的方法を身につけることができる。そして，深い人間理解やよりよい人間関係を築く力が育まれる。言葉で伝え合う力があれば，実際の社会生活においても相手の思いや立場を尊重しつつも自分の考えや意志を表現することをおそれず，自分の人生を豊かに切り開くことができる。さらには国際社会に生きる日本人として誇りと自覚を持って活躍することもできよう。

②　伝え合う力を身につける必要性

激しく変化するこれからの社会でより自分らしく人間らしく生きていくためには，周りの人たちとのコミュニケーションは基本であり必須である。コミュニケーションの基本は相手の人格や考え方を尊重する態度と言葉による伝え合いである。互いの立場や考え方を尊重して，言葉による伝え合いを効果的に行うと，相互理解を深め豊かな人間関係を築くことができ，協力して社会生活を向上させていく意欲と体制が生まれるものである。これからの社会の中で，協力して新たなものを創造しながら，より豊かにたくましく生きていくためには，伝え合う力をぜひ身につける必要がある。

(2)　伝え合う力の指導

伝え合う力は，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての領域において，指導を充実させ育成されるべきである。実際の指導では，どのような言語活動を通して，どのような言語能力を養うのかという計画的・意図的な学習活動が展開されなければならない。そして基礎的・実践的な伝え合う力を養うよう創意・工夫するとともに，伝え合う中身を充実させる指導に配慮することが大切である。そのためには，具体的で多様な言語活動を実際に取り入れ，支援的な指導を心がけると共に，生徒が主体となり，互いに交流しあう学習が展開できるように計画する必要がある。言語活動を行う際は，①誰に対して行うのかという相手意識，②何のために行うのかという目的意識，③どのような場面でという場面意識，④どんな方法を用いるのかという方法意識，⑤活動の過程や結果を振り返り，次の言語活動に生かそうとする評価意識の５つの言語意識を明確にした活動にすることが重要である。

伝え合う力の育成にあたっては，家族環境や生活環境，達成度なども生徒一人ひとり違うのでさまざまな問題が考えられる。このような伝え合う力の育成上の問題（表１）もふまえて，生徒一人ひとりの実態に合わせた適切な指導が大切である。

表１　伝え合う力を育成する上での問題

育成上の問題	①社会的・文化的レベル　②人間関係や人間理解のレベル ③価値観や生き方のレベル　④言語や非言語のレベル

2　「話すこと・聞くこと」について

(1)　「話すこと・聞くこと」で身につけさせたい力

現代の社会は情報化・国際化が急速に進展しあらゆる国が身近になり，意思疎通も容易になり活躍する場もグローバル化している。そのような社会状況下ではまず「自分の意志を示すこと」が重要であり教育現場の中で「自分の思いや考えを発信できる」「相手を尊重し意図や思いを理解し，更にそれを受けた自分の考えを発信できる」ような力を育成しなければならない。

学習指導要領では＜２学年及び３学年＞の目標として（１）「自分のものの見方や考え方を深め目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身につけさせるとともに，話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる」とある。まず１学年の目標である「相手，目的，場面や状況に応じて，話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方，話題の選び方，語句の使い方や文の整え方，話の展開の仕方などを的確に判断して話したり聞いたりする」能力の育成は引き続き重要である。更に「自分のものの見方や考え方を深め」とあるので，思考力や認識力をより高めることに目標を置き，より広い視野で物事をとらえより深い思考力で物事

を判断し自分の考えを論理的に述べる能力の育成に努めるべきである。これらの能力によって「話すこと・聞くこと」の内容も深まり豊かになり，話し言葉そのものを豊かにしようとする態度にもつながっていく。

(2)　「話すこと・聞くこと」の指導事項の系統化と具体化

学習指導要領の解説―国語編―では「話すこと・聞くこと」の指導事項を話す活動の進行過程に沿って系統化している。それが表２である。

表２「話すこと・聞くこと」の指導事項の系統化

観点	第１学年	第２・第３学年
発想や認識の仕方		ア　広い範囲から話題を求め，話したり聞いたりして，自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりすること。
考えや意図	ア　自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話したり，話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりすること。	
話題	イ　自分の考えや気持ちを的確に話すためにふさわしい話題を選び出すこと。	
構成や論理	ウ　全体と部分，事実と意見との関係に注意して，話したり聞き取ったりすること。	イ　話の中心の部分と付加的な部分，事実と意見との関係に注意し，話の論理的な構成や展開を考えて，話したり聞き取ったりすること。
語句や文		ウ　話の内容や意図に応じた適切な語句の選択，文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して，話したり聞き取ったりすること。
話し合い	エ　話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり，それぞれの発言を注意して聞いたりして，自分の考えをまとめること。	エ　相手の立場や考えを尊重し，話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして，自分の考えを深めること。

次に，その系統表に沿って「話すこと」「聞くこと」に分けて指導事項を具体化し，表３にまとめてみた。

表３　指導事項の系統に沿った具体的指導

観点	話すこと	聞くこと
発想や認識の仕方	・自己の経験に限らず，友達や家族の話・メディア等を利用して情報を得る時間を確保し，更に発展させる学習活動を構築する。	・話し手のものの見方や考え方をとらえて，自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりしようとする意識の育成
考えや意図	・伝えたい内容を一文で表す。キーワードのメモ ・「良い話し方」のスキル学習	・「良い聞き方」のスキル学習（聞き取りメモの活用） ・傾聴する態度の育成
話題	・ウェビングなどで話題や話材を広げる	・自分の経験だけでなく聞いたりしたことなども話題や話材としてとらえさせる。
構成や論理	・構成メモの活用と作成の手ほどき ・中心部分と付加部分の効果的配置 ・事実と意見の文章事例の活用 ・表現効果を高めるための構成や展開の工夫	・話の中心部分や事実と意見の違いの聞き取り方 ・話し手の話の構成や展開を正確にとらえ，話の中心や意見がどこにあるのかを聞き取ること。
語句や文	・わかりやすい言葉 ・主語と述語の対応 ・相手や場面にあった言葉使いや話し言葉	・話し手の効果的な文や語句に注目し，説得力のある表現の仕方に注意して，話し手の意図を理解できる。

	効果的な文や語句の使い方，説得力のある表現に注意して話す。	
話し合い	・話し合いの話題や方向性，目的に注意して自分の考えを的確に話す。 ・相手の立場や考え方を尊重し効果的な話し合いができるよう工夫して話す。 ・話し合う中で自分の考えをまとめたり深めたりする。	・それぞれの発言を注意深く聞き，正確に聞き分ける。 ・聞き分けた内容と自分の考えを比較して主体的に話し合いに参加する。 ・話し合う中で自分の考えをまとめたり深めたりする。

(3)　「豊かに話す力」と「積極的に聞く力」

「話すこと・聞くこと」で身につけさせたい力を，具体的に「豊かに話す力」と「積極的に聞く力」ということで次の表にまとめた。

表４「豊かに話す力」と「積極的に聞く力」

	豊かに話す力	積極的に聞く力
育成したい力	○広い範囲から話題を拾い，自分の話したい中心を明確にする。 ○自分の話がよく伝わるような効果的な話の組み立て（構成）ができる。 ○話し方（速度・音量・調子・間のとり方・アイコンタクト）に注意し工夫ができる。	○ポイントを絞った聞き取りができる。 ・５Ｗ１Ｈを意識する ・話したい中心をとらえる ・事実と意見を聞き分ける ・立場や目的によって聞き分ける ○話し手の意図や思いを考えながら話を理解した上でそれに対する自分の考えを深め，言葉にまとめ発信できる。
育成したい態度	○伝えたいという明確な意志を持って話す態度 ○相手意識，目的意識を持って話す態度	○話し手の意図や思いを心から受けとめようとする態度 （話し手を見る・内容に応じてあいづちを打つなど） ○静かに最後まで聞く態度

３　「話すこと・聞くこと」のめざす段階と指導・評価

(1)　「話すこと・聞くこと」のめざす段階と指導について

この領域では，目的や方向に沿って効果的に話したり，相手の意図を理解しながら聞いたりする能力の育成を目指している。「話すこと・聞くこと」の能力の育成を３段階で考えてみた。

表５　「話すこと・聞くこと」のめざす段階

段階	めざす能力	能力の具体化	言語活動例
第１段階	**正確に最後まで話す・聞く**	・「話すこと・聞くこと」の大切さや意義を知り，話を最後まで正確に話したり聞いたりする態度と技能を身につける。	スピーチ学習，対話 放送の聞きとり あいさつ，報告
第２段階	**意識的・効果的に話す・聞く**	・相手や目的・場面を意識して効果的に話したり聞いたりする技能，事実と意見に注意し論理的な構成や展開を考えて話したり聞いたりする技能を身につける。	スピーチ学習，対話，プレゼンテーション，意見発表，説明
第３段階	**積極的に豊かに話す・聞く**	・相手の考えや思いを自分に結びつけた積極的な聞き方，相手の立場を尊重しながら話の目的や意図に応じた説得力のある話し方を身につけ，自分のものの見方や考え方を深めていく。	スピーチ学習，対話，バズセッション ディスカッション ディベート

大切なことは，学校・学年・学級の生徒の実態が全体としてどの段階にいるのか，また学年として到達したい段階，その単元学習をするときの到達目標はどの段階なのかを，教科内で，及び実際の指導者が明確にして，年間指導計画や単元指導計画を作成するべきである。また，あくまでも生徒一人ひとりの到達度は違うので，学級全体の学習の指導とともに一人ひとりに応じた個別的なていねいな指導を心がけなければならない。

(2)　「話すこと・聞くこと」の評価の在り方

①　評価の基本的な考え方

教育における評価はどうあるべきか。まず生徒本人にとってはその評価が次のステップにつながるものでなければならない。過去の自分の能力が日々学習する中でどう高まっているのか「こういう力がついたんだ。」ということを実感し，「今後，○○な風に学習すればもっと伸びるはずだ。」という見通しを持ち学習意欲を喚起するものでなければならない。従って結果のみではなく，学習のプロセスを重視し，学ぶ意欲や問題解決の能力，個人内評価などの視点から多面的にとらえる必要がある。次に指導者にとっては評価することで，自らの指導を振り返り，授業の改善を図り次の授業に生かすという指導と評価の一体化を意識することが大切である。

②　評価計画の手順と配慮事項

単元の評価計画は学習活動の形成的評価と深く関わってくる。まず学年の指導内容の中から，その言語活動例に合わせ，その評価規準が絞られてゆく。単元の目標（評価規準）が決まったら，単元の毎時間の学習指導案をもとに，その目標に照らして，それぞれにふさわしい評価場面・評価方法を決め，評価基準を設定する。「話すこと・聞くこと」の評価には，主として「話す・聞く能力」，その他に「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」が関わってくる。単元評価を作成するにあたり，金子守氏の観点「話す・聞く能力」の評価規準を表６に示す。

表６　観点「話す・聞く能力」の評価規準

〈第２学年及び第３学年〉

<table>
<tr><td>目標</td><td colspan="2">自分のものの見方や考え方を深め，目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに，話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="2">ア　発想や認識　　イ　構成や論理　　ウ　語句や文　　エ　話し合い</td></tr>
<tr><td>観点の趣旨</td><td colspan="2">自分のものの見方や考え方を深めて，目的や場面に応じ，説得力のある表現の仕方に注意して話したり聞き取ったりする。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">評価規準</td><td>ア　発想や認識</td><td>○広い範囲から適切な話題を選んで話している。
○話し手の話題の中心や内容を的確に聞き取り，自分のものの見方や考え方を広めたり，深めたりしている。</td></tr>
<tr><td>イ　構成や論理</td><td>○話の中心の部分と付加的な部分との関係に注意して，話したり聞き取ったりしている。
○事実と意見との関係などに注意し，話の論理的な構成や展開を考えて，話したり聞き取ったりしている。</td></tr>
<tr><td>ウ　語句や文</td><td>○話の内容に応じた適切な語句を選択して，話したり聞き取ったりしている。
○話の意図に応じた文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して，話したり聞き取ったりしている。</td></tr>
<tr><td>エ　話し合い</td><td>○相手の立場や考えを尊重し，話し合いが目的に沿って効果的に展開するよう話したり聞き取ったりしている。
○互いの共通点や相違点を聞き分けたりして，自分の考えを深めている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価規準の具体例</td><td>〈ア　発想や認識〉</td><td>「Ａ話すこと・聞くこと」の言語活動の話題を求める場合，自分自身が直接経験したことから得られる情報だけでなく，家族や友人，テレビや新聞・雑誌，コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段を通して収集した情報を含めて，自分のものの見方や考え方を広げ，深め，まとめている。</td></tr>
<tr><td>〈イ　構成や論理〉</td><td>例えば，ディベートなどの討論活動において，話の中心となる話し手の考えや立場を明確にし，意見とその論拠となる事実等を効果的に組み合わせて論理的に筋道立てて話したり，また，話し手のものの見方や考え方を論理的に聞き取り，話し手に効果的に説得力のある反論を加えたりしている。</td></tr>
</table>

	〈ウ　語句や文〉	例えば，インタビューなどの対話活動において，相手や場面などに応じて，適切に敬語を使ったり，易しい語句を選んで分かりやすい言葉遣いで話したり，また話の中で使われている語句や表現から語感をとらえ，話のニュアンスを聞き分けたりしている。
	〈エ　話し合い〉	パネルディスカッションなどの話し合い活動において，司会者の指示に従って積極的に話し合いに参加し，目的に沿って的確に話したり，それぞれの発言の共通点や相違点を正確に聞き分け，発言者の意見を補足したり参考にしたりして，自分の考えをまとめたり深めたりしている。

中学校　新国語科の授業モデル　1「話すこと・聞くこと」編　　河野庸介編著

4　スピーチ学習

(1)　スピーチ学習とは

安居總子氏は『中学校の表現指導　聞き手話し手を育てる』の中で，話し言葉の成立条件の型を３つあげている。独話（一対衆），対話（一対一），会話（一対多）である。この中でスピーチは独話（１対衆）の型になる。つまり「みんなの前で自分の思いや考えを語る」形式がとられる。その特徴として①話し手と聞き手の立場が明確で，また，交互に入れ替わり，互いに密接な関係となる。②生徒一人ひとりの思いや考えにスポットライトを当てる場となる。③学習者にはお互いの人柄，体験，考えなどへの発見があり連帯感が育まれる。などがあげられる。

スピーチ学習を成功させるポイントは話題選定の仕方と話の組み立てる具体的手立てをどうするかである。スピーチのテーマは最初から限定しないほうがよく，生徒の今の興味や関心に基づいて話題を考え，似たり寄ったりにならないような話題選びができるよう配慮したい。次に，話の内容を考える際の手引きの工夫や原稿メモの工夫，生徒一人ひとりがそれぞれどんな話題でどんな話をしようとしているか把握し，それに基づく適切な助言をすることが魅力的なスピーチ学習を行う上で重要なポイントである。また，よい聞き手がよい話し手を育てると言われるように，「よく聞く」すなわち「傾聴する力」を意識して指導しなければいけない。

(2)　スピーチ学習を支える要素

スピーチ学習を支える要素には３つある。第１に意識である。何の目的で誰に向かって話すのかが生徒に明確に伝わりそれが意識される必要がある。第２に技術または工夫である。話題選びに始まり話の構成，スピーチ原稿，間のとり方，目線，展開の工夫などのスキルを習得させる。これは指導者の学習指導における具体的手立てと導きに関わってくる。最後に土台ともいうべき学級経営がある。思いや考えをみなが受け止めてくれるという受容的雰囲気が学級内に満ちているか。所属感・安心感があるかという事も，スピーチ学習を支えあう要素となる。

(3)　スピーチ学習の指導上の工夫

①　スピーチ学習に意欲を持つ導入の工夫

単元学習を展開していく中で，意欲や学習の動機づけの面から考えて導入の１時間めは非常に重要である。今回の単元の導入では，ゲーム性のあるエンカウンターエクササイズ学習を取り入れたい。具体的ルールやゲーム内容は図１である。この導入を取り入れることによって「話すこと」「聞くこと」「伝え合うこと」の難しさとそれを学習する意義を理解させ，スピーチ学習に意欲を持たせたい。また最初に単元計画を提示し，生徒自身が見通しを持って学習に取り組めるように配慮していくつもりである。

表７　エクササイズ学習

ルール説明

①　３人一組になり，それぞれ話し手，聞き手，観察者を決めます。

②　“共鳴図形”に３回チャレンジし，話し手の持っている図形とぴったり同じ図形が描けるか挑戦します。３回ともルールが違うので注意してください。

１回目・・・話し手の説明だけで聞き手は図形を描く。観察者も黙って観察する。

２回目・・・話し手は図形の説明をします。聞き手も質問ができる。観察者は黙って観察する。

３回目・・・話し手も聞き手も説明，質問ができる。観察者もアドバイスができる。

②　学習段階に沿った指導とワークシートの工夫

生徒にとってスピーチをする上で困るのは，やはり話す内容がはっきりしないということで

ある。そこでスピーチ学習を学習段階に応じて細分化し具体的手立てがわかるようなワークシートを工夫し，活用していく。まず「話し方」「聞き方」のスキル学習では，技能と態度に分けて，わかりやすくスキルを習得できるようなワークシートにする。これがスピーチの場の土台づくりとなる。次に，話題選びと話材については，ウェビングによって自由に発想を広げ，それを見ながら，話の中心と話の構成を決められるようにする。ウェビングや構成メモについては，いくつかの具体例を提示することで，自分自身の話題・構成メモに置き換えて考えられるように配慮したい。更に，スピーチ原稿のワークシートは原稿用紙タイプにし，１分間に３００字程度というスピーチに適した字数がひと目で分かるよう作成し，話し方の工夫も書き込めるようにする。生徒によっては，文章化できないという子もいるので，基本的なスピーチの形や基本事例文を効果的に使っていく。また，誰がどの職場でどんな体験をしてきたのかを把握し，適切な支援や指導を心がける。このようにして，生徒一人ひとりに話す内容をしっかり持たせていきたい。

③　「良い話し方」「良い聞き方」ボードの作成と掲示

単元学習の中で行う，「良い話し方」「良い聞き方」のスキルをボードにして，教室に掲示したい。そうすることで，国語の教科に限らず他教科や，学級活動の中でも「良い話し方」と「良い聞き方」の意識づけが可能になるのではないか。

④　スピーチの発表の場の工夫

生徒にとっては話す内容がしっかり決まっても，みんなの前で一人で話すというのは大変緊張するものである。そこで，全体の発表の前に，４人グループで練習しお互いにアドバイスしあうという練り合いの場を持つ。きちんと司会を立てて進行手順に沿って，一人ひとりスピーチをしてアドバイスを受ける。このように，全体スピーチの前に，小人数の中で一度スピーチ練習をする場があるというのは，生徒にとって緊張をほぐし自分の話をより良いものにする効果的な方法である。

⑤　自己評価と相互評価の工夫

自己評価は，自分の学習過程を振り返り自分自身で伸びを意識したり，自分自身の課題や弱点をみつけだすことがねらいとなる。相互評価は，お互い生徒同士で良いところを中心に評価することで，良さを認め合い受容的雰囲気を高めながら，意欲や能力の伸長につなげることができる。単元学習では，スピーチ原稿を書く学習までは自己評価表を使い，次のスピーチの発表の場では，相互評価表を中心にする。相互評価の場面では，聞き手から話し手に，どんなところが良かったかをきちんと言葉によって伝える場を設けたい。相互評価を取り入れることによって聞き手は友達のよさを発見するために積極的に聞く。話し手はその場で言葉によってよさを認められ，次に，心のこもったメッセージーを受け取ることで喜びや自信が倍増し，内容や話し方にもより工夫が見られるようになるのではないかと考えられる。

5　「伝え合う力」の実践の場の設定

「伝え合う力」は一朝一夕で身につく力ではなく「話す・聞く・話し合う」ための理論や知識をどれだけ学んだところで，伝え合う力が高まったとはいえない。本気になって話したり聞いたりする実践の場を設定することが重要である。

お互いを認め合う受容的雰囲気に満ち，生徒一人ひとりが表現力を発揮できる場が確保されている教室の中で，指導者が，生徒の興味・関心・意欲を引き出し手立てを示した実践の場でこそ，力いっぱいに話し，真剣に聞くという活動ができる。そして実践の場の活動を繰り返すことが「話す力」「聞く力」につながるのである。また，「伝え合う力」をつけさせる場面というのは，国語以外の教科その他あらゆる活動においても一貫した指導を継続していくことが重要である。学級においては，生徒同士が自分たちの個々の見方・考え方の違いや異なる意見を受け入れ，互いに認め合えるような雰囲気づくり，人間理解を深められる信頼関係づくりが学級経営として求められる。また日頃から，教師自身が言葉使いに気をつけ，生徒の話を真摯に受け止め耳を傾ける意識を持つことが大切である。日常生活の中で生徒自身が言葉に対して関心を持ち，言葉のアンテナを敏感にしていくやりとりの積み重ね，多種多様な実践の場を設けることが必要である。考えられる実践の場をあげておく。いずれの場も目的意識や指導する側の意識が非常に大切である。

(1)　学級の朝の会，給食時間等を利用したスピーチの会の場
(2)　学級の学級会やレクリェーションの場
(3)　学級内でのエンカウンターの場
(4)　国語科の学習活動の場
(5)　国語科以外の学習活動の場

Ⅶ　検証授業

国語科学習指導案

日　時：平成１８年7月１１日（火）５校時
学　級：真志喜中学校２年２組
男子２０名　女子１７名　計３７名
授業者：伊　差　川　幸　江

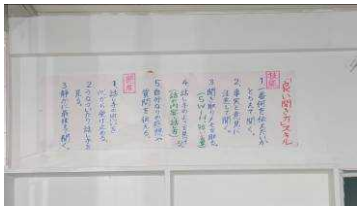
1　単元名　　スピーチ学習
2　教材名　　「スピーチをしよう　～キャリアウィークを通して～」
3　単元の学習目標
(1)　伝え合う意義や目的を知り，スピーチ学習に意欲をもつ。　〔関心・意欲・態度〕
(2)　キャリアウィーク体験から適切な話題を選び，話したり聞いたりすることができる。
〔話すこと・聞くこと〕
(3)　自分の伝えたい話の中心や事実と意見を明確にとらえ，スピーチメモの構成，原稿を書くことができる。キャリアウィークを通して働くことの大切さ・大変さ・楽しさを味わい，自分なりの発見や感想を書くことができる。　〔書くこと〕
(4)　相手や目的・場面を意識して，伝えたい話の中心や事実と意見を明確にとらえ，構成や話し方を工夫して効果的に話すことができる。　〔話すこと　第２段階〕
(5)　話し手の意図を考えながら，話の中心を聞き取ったり，事実と意見を聞き分けたりして，自分に結びつけて積極的に聞くことができる　〔聞くこと　第３段階〕
4　単元について
(1)　単元設定の理由
指導要領で「伝え合う力」が重視され，言語活動例として説明や発表，対話や討論などを行うことが配慮事項として上げられている。スピーチ学習は「話すこと」と「聞くこと」を一体的にとらえ，「話し手」と「聞き手」の立場が明確かつ，交代して双方向で学習できる言語活動である。生徒は「話し手」として自分の伝えたいことをばらばらに意識するのでなく，同じ級友に効果的に伝わるような内容に再構築し，話し方も意識してスピーチをすることになる。また一方で「聞き手」として仲間の思いや意図を受け止め，感動，共感し自分自身の考えを広めたり深めたりすることも可能である。国語科の重点目標である「伝え合う」事を端的に基本的に学習するのに適した単元といえよう。
(2)　教材観
生徒はこれまでの進路学習で，自分自身の適性を考えたり，身近な職業や資格などの調べ学習などを行ってきた。しかし実際に，両親の仕事の内容ややりがい，苦労話などを聞く機会や，仕事体験をする機会などが少なく，まだ勤労の大変さや自分自身の将来の職業について真剣に考えたことがないのが現状である。そんな中，一週間というキャリアウィーク体験が６月に予定されている。生徒は興味のある仕事を実際に体験し，現場の雰囲気や職業人のプロの声を聞くことができるであろう。きっと，これまで考えたことのない衝撃的な思いや発見をする生徒もいると思う。そこで，ぜひ，キャリアウィーク体験の中から，話題や話材を拾ってスピーチ学習をしたいと考えた。キャリアウィーク体験のねらいは以下の３つである。
①　事業所の人と共に働くことにより，職業についての現実的な理解を得て将来を見通して職業人としての「生き方」に触れさせる。
②　職場体験を通して，働くことの大切さ・大変さ・そして楽しさを肌で感じ取る場とする。
③　自らの将来の方向性を見いだし，今自分は何をすべきであるか考えさせ，個々の進路選択に向けての意識を高める。
(3)　生徒の実態
男女の仲は良く，比較的おとなしいクラスである。普段の何気ない時間のおしゃべりには花が咲くが授業中の発言やかしこまった場では，何を話してよいか分からないのか静かである。事前に行ったアン

ケートによると，自分の考えや思いを伝えることができないと感じている生徒は３６名中１５人いる。その理由として，話題を見つけることや話の中心を決めることができないをあげている。またスピーチ原稿を見ながらスピーチをする生徒が多く「話す」という意識が少ないように感じられる。次に「聞くこと」については，話の中心をつかんだり事実と意見の聞き分けはできる生徒が多いものの，メモを取る習慣がないことや，友達の話を聞いて自分の考えを述べたり質問をするという積極性もやや低いことがわかった。ただ，生徒自身は，「話すこと」と「聞くこと」の必要性は感じており，「うまく話せるようになりたい」「しっかり聞けるようになりたい」と感じている。

(4)　指導観

指導にあたっては，導入で伝え合う意義や学習の目標を明確にし，話しやすい雰囲気づくりや意欲を高めたい。次に，基本的な「話し方」「聞き方」のスキル学習をし，特に聞き方については，メモの取り方と「傾聴する」意識の指導に力を入れる。更に実際のスピーチの話題選びや話材，原稿作成については，学習段階を細分化して支援的指導を心がけ，生徒が「話す内容」をしっかり持てるようにしたい。また，スピーチをする実践の場では「練習して練り合う場」を大事にし，時間を確保してあげることで本番ではより自信を持って話し，しっかりと聞きお互いに交流しあえるのではないかと考える。

５　単元指導計画（全９時間）

次	時	目標	学習活動	教師の支援
一次	1	・ゲームの趣旨やルールを理解し意欲的に参加する。 ・「伝え合う」意義を理解し，スピーチ学習に意欲を持つ。 	“共鳴図形にチャレンジ” ①３人一組（聞き手・話し手・観察者）で“共鳴図形”にチャレンジ ②シェアリング ③教師のまとめと単元学習の予告 ④自己評価を書く。	○ゲームのねらいとルールをきちんと説明する。 ・ゲーム手順ボード ・共鳴図形用紙 ○シェアリングのやり方をワークシートで説明する。 ・ワークシート
二次	2	・「良い話し方」「良い聞き方」の技能と態度を理解しまとめる。	①これまでのスピーチ会を振り返る ②「良い話し方」「良い聞き方」を技能　と態度に分けて話し合う。 ③「良い話し方」「良い聞き方」スキルのまとめ ④自己評価を書く。	○スピーチ会のイメージをもたせる。 ○黒板に提示できるような「良い話し方」「良い聞き方」ボード ・ワークシート ・「良い話し方」「良い聞き方」ボード
	3	・聞き方練習で「良い聞き方」の技能と態度を身につける。 	①聞き方練習 連絡・立場の違う聞き取り・教師のスピーチ ②自己評価を書く。	○聞く練習の教材としては，身近にある生徒の興味を引く話材を取り上げる。(聞く態度の指導とメモの取り方をワークシートで確認する。) ・ワークシート ・「良い聞き方」ボード
三次	4	・キャリアウィーク体験の中から話題を選び，ウェビングで話材を考えることができる。 ・話の中心とスピーチの構成メモを書くことができる。	①キャリアウィーク体験の中から話題を決め，ウェビングで話材を広げる。 ②話の中心を決め，スピーチメモを作成する。 ③自己評価を書く。	○誰がどこの職場に行ったか，どのような体験が主であったかを事前に把握し，ウェビングの時，的確な助言とヒントを与えることができる様にする。(T・Tによる指導) ・ワークシート

	5	・スピーチメモを基に工夫して，原稿を書くことができる。	①スピーチメモを基に２分間スピーチ用の原稿を書く。 ②完成した人は教師に見せ，個人でスピーチ練習をする。（スピーチ用のキーワードメモを作る） ③自己評価を書く。	○　ワークシートに沿って，話の構成の手順，話し言葉や話し方の工夫など手順を説明し，個別指導を行う。（Ｔ・Ｔによる指導） ・ワークシート
四次	6	・グループ内スピーチ会を持ち，お互いにアドバイスし合って練習をする。 	グループ内スピーチ ①４人グループでスピーチ会を行い，お互いにアドバイスしあう。（相互評価） ◎話し手は「読む」でなく「話す」を意識し，聞き手は相手の話の良いところ，改善点をアドバイスできるよう注意して聞く。 ②アドバイスを基に原稿を練る。 ②全体スピーチ会の代表を決める。 ③自己評価を書く。	○確かな練り合い（交流）の場となるよう，目的とやり方を確認する。 ○「読む」と「話す」の違いについて指導する。 ○グループのメンバーは，職場の偏りがない，司会ができる子の配置を念頭に構成する。 ○机間指導しながらうまく機能するよう助言する。 ・ワークシート
四次	7 本時	・誰に何を伝えるのか意識して工夫してスピーチをしたり，聞き取りメモを利用してしっかりと聞き，感想や質問ができる。	全体スピーチ会① ①前時を振り返り，「話し方」「聞き方」を押さえる。 ②スピーチ会の流れと，聞き取りメモの書き方を確認する。 ②代表４人のスピーチ ・スピーチ　１～２分 ・アドバイスカード記入　４分 ・質問・感想タイム　４分 ※このサイクルを４回繰り返す。 ③自己評価を書く。	○「良い話し方」「良い聞き方」を振り返り，全員で復唱する。 ○学習目標を提示し，スピーチ会，聞き取りメモについて説明する。 ○教師による司会進行 ○質問・感想タイムでは，自発的に感想を述べる事を奨励する。いなければ指名する。 ・タイマー ・ワークシート
	8	・誰に何を伝えるのか意識して工夫してスピーチをしたり，聞き取りメモを利用してしっかりと聞き，感想や質問ができる。	全体スピーチ会② ①「話し方」「聞き方」の確認 ②代表５人のスピーチ ・スピーチ　１～２分 ・相互評価記入　４分 ・交流タイム　３分 ※このサイクルを５回繰り返す。 ③自己評価を書く。	○「良い話し方」「良い聞き方」を確認後，スピーチ会②を始める。 ○交流タイムでは，自発的に感想を述べる事を奨励する。いなければ指名する。 ・タイマー ・ワークシート
	9	・スピーチ学習の成果をお互いに認め合い，「話すこと・聞くこと」「伝え合うこと」についてまとめる。	感想スピーチ ①単元学習後の感想を，一人５文程度（３０秒程度）のスピーチメモにまとめる。 ②１０人ずつ区切り感想スピーチを行う。区切りでは教師がワンクッションの役割をする。 ④全員のスピーチ終了後，単元学習の自己評価を書く。 ⑤教師のまとめ	○「話す」「友達の思いを汲み取って聞く」意識で進めることを確認する。 ○区切りでの教師の言葉は，スピーチで出た感想に触れる程度にとどめる。 ・ワークシート

６　評価計画

時	観点	評価規準	評価方法	十分満足できる（A）	概ね満足できる（B）	努力を要する（C）　◎手立て
1	関心	・ゲームの趣旨やル	観察法	・学習活動の趣旨を踏	・ゲームで自分の役割	・ゲームで自分の役割をするこ

	意欲態度	ールを理解し，意欲的に参加する。 ・「伝え合う」意義を理解し，スピーチ学習に意欲を持つ。	ワークシート	まえてゲームでは自分の役割を一生懸命行う。 ・シェアリングの場で意欲的に発言できる。	を理解し参加・活動できる。 ・シェアリングの場で自分の番に来ると発言できる。	とができない。 ◎注意を促しそれぞれの役割に適切なアドバイスを行う。
2	話す・聞く	・「良い話し方」「良い聞き方」の技能と態度を理解しまとめる。	発言 ワークシート	・発問に対して自分なりに考えたり，「良い話し方」「良い聞き方」をワークシートにまとめることができる。	・「良い話し方」「良い聞き方」をワークシートにまとめることができる。	・ワークシートに書けない。 ◎「良い話し方」「良い聞き方」を理解させ，ワークシートにまとめさせる。
3	話す・聞く	・「良い聞き方」の練習をして技能と態度を身につける。	聞き取りメモ	・聞き方練習問題でメモを取ったり，あいづちを打つなど「積極的に聞く」ことができる。 ・教師のスピーチの中心と話の構成が聞き取れる。	・指示をすると時々メモを取れる。 ・最後まで話し手の方を見て静かに聞くことができる。	・聞き方練習においては下を向いたりおしゃべりなどで聞いてない。 ◎個別指導でヒントを出したり，「ワンチャンス」と題して，可能なものはもう１回行う。
4	書く	・キャリアウィーク体験の中から話題を選び，話材を考えることができる。 ・話の中心とスピーチの構成メモを書くことができる。	ワークシート	・キャリアウィーク体験のねらいをふまえて，適切な話題を選び話材を幅広く広げることができる。 ・一番伝えたい中心を適切に決めて，効果的なスピーチの構成メモが作成できる。	・キャリアウィーク体験より話題を選び，話材を考えることができる。 ・話の中心とスピーチの構成メモを書くことができる。	・話題を見つけることができない。ウェビングが進まない。 ◎職場体験の仕事に関連する対話で話材を導く。 （T・Tによる指導） ・スピーチメモの作成ができない。 ◎ワークシートに沿って個別指導を行う。
5	書く	・スピーチメモを基に工夫して，原稿を書くことができる。	ワークシート	・スピーチメモを基に，みんなにわかりやすく工夫した原稿を書くことができる。	・スピーチメモを基にスピーチ原稿を書くことができる。	・スピーチ原稿が書けない。 ◎スピーチメモから文章化する作業を個別指導する。
6	話す・聞く	<話す> 相手意識・目的意識を持って工夫して話す。 <聞く> アドバイスできるよう友達の話をしっかり聞く。	観察 相互評価 自己評価	<話す> ・練り合いの場を意識して，伝えたいことがよく伝わるように工夫して話す。 <聞く> ・練り合いの場を意識して，話し手の意図を考えながらスピーチを聞き取り，よい点や改善点をアドバイスできる。	<話す> ・練り合いの場を意識してスピーチ原稿を読むことができる。 <聞く> ・練り合いの場を意識してスピーチを聞き取り，よい点や改善点をアドバイスできる。	<話す> ・スピーチ原稿を読む。 <聞く> ・話し手のスピーチに関心を示さず，よい点や改善点に気づかない。 ◎練習して練り合う意義を理解させ，意欲的に取り組ませる。
7	話す・聞く	・誰に何を伝えるのかを意識して工夫	発言や観察	<話す> ・誰に何を伝えるのか	<話す> ・誰に何を伝えるのか	<話す> ・スピーチ原稿を棒読みしてい

		してスピーチをしたり，聞き取りメモを利用してしっかりと聞き，感想や質問ができる。	ワークシート（相互評価）	を意識して，キーワードメモで工夫してスピーチができる。 <聞く> ・話し手の意図を考えながら聞き取りメモを取り，話の中心，事実と意見を聞き分けることができる。 ・感想や質問をすることができる。	を意識して，キーワードメモを基に，原稿をときどき見ながら，工夫してスピーチができる。 <聞く> ・聞き取りメモを利用して，話の中心，事実と意見を聞き分けることができる。 ・感想を持つことができる。	る。 <聞く> ・話し手のスピーチに関心を示さず，メモを取ることができない。 ◎話し手にはポイントを覚える努力をさせる。 ◎聞き手には５Ｗ１Ｈを聞き分けたり，大事だと思う言葉をメモを取るのを意識させる。
8	話す・聞く	・誰に何を伝えるのかを意識して工夫してスピーチをしたり，聞き取りメモを利用してしっかりと聞き，感想や質問ができる。	観察や発言 ワークシート（相互評価）	<話す> ・誰に何を伝えるのかを意識して，キーワードメモでスピーチができる。 <聞く> ・話し手の意図を考えながら聞き取りメモを取り，話の中心，事実と意見を聞き分けることができる。 ・感想や質問をすることができる。	<話す> ・誰に何を伝えるのかを意識して，キーワードメモを基に，原稿をときどき見ながらスピーチができる。 <聞く> ・聞き取りメモを利用して，話の中心，事実と意見を聞き分けることができる。 ・感想を持つことができる。	<話す> ・スピーチ原稿を棒読みしている。 <聞く> ・話し手のスピーチに関心を示さず，メモを取ることができない。 ◎話し手にはポイントを覚える努力をさせる。 ◎聞き手には５Ｗ１Ｈを聞き分けたり，大事だと思う言葉をメモを取るのを意識させる。
9	話す・聞く 関心 意欲 態度	・スピーチ学習の成果をお互いに認め合い，「話すこと・聞くこと」「伝え合うこと」についてまとめる。	発言や観察 ワークシート（相互評価） 自己評価	・スピーチ学習の成果について，感想スピーチをしたり，話し手の意図を考えながら熱心に聞くことができる。 ・自己評価の単元終了後の感想で，「話すこと・聞くこと」や「伝え合う」ことについて，前向きな感想や姿勢を持つことができる。	・スピーチ学習について感想スピーチをしたり，熱心に聞くことができる。 ・自己評価の単元終了後の感想で，「話すこと・聞くこと」や「伝え合う」ことの大切さに気づく感想を持つことができる。	・感想スピーチが不十分である ・スピーチに関心を示さず，静かに聞くことができない。 ・自己評価の単元終了後の感想に成長感や，「話すこと・聞くこと」への関心の言葉が表れない。 ◎「話すこと・聞くこと」について継続した指導を計画する。

7　本時の指導計画

(1)　本時の目標

誰に何を伝えるのか意識して工夫してスピーチをしたり，聞き取りメモを利用してしっかりと聞き感想や質問ができる。

(2)　授業仮説

① 話し手は，導入の場において「良い話し方」のスキルを確認し，原稿ではなくキーワードメモを基にスピーチをすることによって，誰に何を伝えるのかを意識して工夫してスピーチをすることができるであろう。

② 聞き手は，展開の場において，項目ごとに分けた聞き取りメモを利用することにより，しっかりと聞き感想や質問を持つことができるであろう。

(3) 本時の展開

	学習活動	○教師の支援・留意事項　☆生徒の予想	評価の観点
導入 6分	1 前時を振り返る。 2 本時の目標を提示する	○前時までの学習を振り返り，「良い話し方」「良い聞き方」を生徒にあげてもらいながら，ポイントを確認する。 ☆伝えたいことをはっきりさせる。事実と意見がわかるように話す。など・・・ ☆伝えたいことをとらえる。事実と意見を聞き分ける。など ○出てこない場合は，提示する。 ○聞き上手がよい話し手を育てることを強調する。 ○各グループの代表全体スピーチ会を行います。代表４人の名前をあげる。 ☆拍手	・教師の説明を顔を上げてしっかり聞いている。 （関心・意欲・態度）
	本時の目標 ①キーワードメモを基に，誰に何を伝えるかを意識して工夫してスピーチをしよう。 ②聞き取りメモを利用してしっかりと聞き，感想や質問をしよう。		
	3 スピーチ会の進め方と聞き取りメモの利用の仕方を説明する。	○進行手順と聞き取りメモのワークシートを配る。 ○スピーチ会の進め方と聞き取りメモの書き方のポイントを掲示し簡単に説明する。 ○聞き取りメモはスピーチを聞きながら書く。但し，書くことに集中するのではなく，話し手の顔を見る。 ○話し手の最初の礼と最後の礼のあとに，しっかりと拍手をする。	
展開 ３９分	4 全体スピーチ会を行う。（代表者４人） ・紹介 ・スピーチ　1～2分 ・メッセージカードを書く　4分 ・質問・感想タイム　4分	○教師の司会進行でスピーチ会を開始する。 ○教師も紹介後，座って聞く。 ☆姿勢が悪い。☆聞き取る準備をしていない。 ○全体的に聞く姿勢を正すことを投げかけ，机間指導の際に本人に注意を促す。 ○聞き取りメモを見ながら心のこもったメッセージカードを書く。 ○メッセージカードを書く時間に机間指導をし，あまり書けない生徒を指導する。 ○スピーチの内容のよさや話し方に気づかせる。 ○話の中で感動したところや感心したところ，共感したところなどを具体的にあげ，それについての自分の感想を添える。 ○質問・感想タイムの発表者を２人程度絞っておく。 （スピーチの良さに気づいている生徒や，視点が違う生徒のワークシートへ付箋紙をはる。） ○質問・感想タイムでは挙手してもらい発言してもらう。	〔話し手〕 ・誰に何を伝えるのかを意識して，キーワードメモを基に，原稿をときどき見ながら，工夫してスピーチができる。 〔聞き手〕 ・聞き取りメモを利用して，話の中心，事実と意見を聞き分けることができる。 ・感想を持つことができる。 （話す・聞く）

	※このサイクルを４回繰り返す。	○聞き手が話し手に変身して，話し手をしっかり見てメッセージを発表するように声をかける。スピーチした人もしっかり相手を見てメッセージを受け取る。	観察・発言
まとめ５分	5　自己評価表を書く。 6　次時の予告をする。 次回は全体スピーチの２回目 （残り５人の代表）	○自己評価を書いてもらう。話し手をしての感想と，聞き手をしての感想を何名かに発表してもらう。 ○机間指導をしながら，発表者を絞る。 ○質問・感想を発表できなかった人は，ぜひ次回のスピーチ会で積極的に発表できるよう激励する。	自己評価と聞き取りメモの提出 （話す・聞く）

８　検証授業研究会

(1)　授業者の反省

○　導入に時間をかけてしまい，質問・感想タイムが短くなってしまった。生徒はもう少し発言したかったかもしれない。時間配分の工夫が必要だと感じた。

○　前時のグループでの練り合いがきちんとされていたという手応えがあまりなかったので，本時は厳しいと予想していたが，話し手のがんばろうという意欲と聞き手の自主性に助けられ，楽しいスピーチ会になった。

○　聞き取りメモの評価ができるようワークシートを工夫したが，できる生徒とできない生徒，また少し高度な要求だったかなという反省もあるので，評価の仕方（概ね満足できる範囲）を検討したい。また，継続的な指導計画を考えていきたい。

○　スピーチ学習の発表会は，自分たちの楽しい発表の場であるという雰囲気づくりも重要であると感じた。

(2)　意見及び感想

①　生徒がそれぞれ力を出しており，掲示物（スキル）があり，聞く訓練がよくされていた。

②　スポーツも学習も自分のフォームを作る点では一緒である。これで終わりではなく，復習して身に付けさせてほしい。

③　生徒はスピーチ学習をよく理解しながら学習していた。

④　授業を通して工夫がたくさん見られた。ワークシートの工夫，掲示物もわかりやすく短い言葉で簡潔に書かれていた。とても参考になる授業であった。

⑤　人前で話すのは難しいことであるが，がんばろうという気持ちにさせていた。

⑥　話を聞きながら事実と意見を分けて書くのは相当難しい。メモの取り方の工夫や支援が必要だと感じた。

⑦　聞き手に対して「話し手の顔を見て聞く」ということを強調して，聞き取りメモの事実と感想も２つぐらいでと，具体的に指示していたので，聞き手はずっと書き続けるということがなくて，話し手に集中できていた。

⑧　話し手が聞き手からの感想を聞いて，笑みに成就感がみられ，聞いたあとに「ありがとう」の言葉がでたのは良かった。

⑨　絶えず机間指導を行い「教師の指示が行き届いているか」「つまずいている子はいないか」「どんな反応を取り上げるかの確認」などがされていた。

⑩　話し手がスピーチをしている時に教師が後方で「もっと声を大きく」等のカードを提示する支援がみられ，それに生徒が反応する姿が見られた。

(3)　指導助言

①　成果

○　単元計画や準備がきちんとされていて，段取りに苦労したあとが見られたが，見ごたえのあるスピーチ会であった。

○　導入で，本時の手立て，ねらいをきちんと押さえており，フラッシュカードによる的確な指示がされていた。

○　スピーチ学習では，話し手の指導に重きが置かれがちであるが，話し手だけでなく聞き手の指導に力を入れていたのはすばらしかった。

○　スピーチが上手な生徒は，内容が絞り込まれていることや音声の調節がうまいことなどが上げられる。また上手な伝え方として，意味のまとまり（一文）で語りかけ，間をしっかり取ると，聞き手が話を整理する時間が取れて聞き取りやすい。３人目のスピーチがそうであった。

○　日本人が苦手な分野は，論理的に話す力である。おしゃべりはできるが，公的な場できちんと話す訓練が小中高と一貫して行われているか疑問である。その基本となる話す・聞くで授業をするのは難しいテーマであり，挑戦した事はすごいことである。

②　課題及び要望

○　メモは，話している最中に取るか，聞いた後で取るかは，テーマに応じた扱いが必要であり，テーマに沿ったワークシートを準備するとよい。

○　スピーチが苦手な生徒にはチャンスを与える工夫が必要である。

○　次の発表会では今回発言しなかった生徒が，発表できるようにしてほしい。

○　方法知（例：魚を釣る方法を教えれば，一生食べていける），つまり，学び方を教える授業を構築していってほしい。授業力があるので，バランスの良い授業が展開されていくはずである。

スピーチの様子　「みなさんの家にはタタミがありますか？・・・」

感想・質問タイムの様子

「将来の仕事を決めるのに役立てたいという気持ちがよく伝わってきました。・・・・」

Ⅷ　仮説の検証

1　具体仮説１の検証

「話すこと･聞くこと」のスピーチ学習の導入において，話し合いと合意形成を目的としたエンカウンターエクササイズ学習を取り入れることによって，伝え合う意義や単元学習の目標が明確になり，今後の学習に意欲的になるであろう。

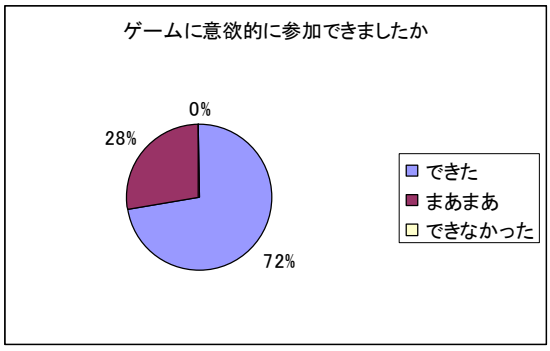


図１　自己評価

単元学習を展開していく中で，意欲や動機付けの面から考えて導入の１時間目は非常に重要である。そこで，今回の単元の導入においては，ゲーム性のあるエンカウンターエクササイズ学習を取り入れた。授業の最後に自己評価をしてもらったのが，図１であるが，意欲的に参加できたかという問いに対して，クラス全員が，「できた」「まあまあ」と自己評価している。また，教師が最初に「今日はゲームをやります」という一言で「ワー」という歓声が上がり，エクササイズ進行中も楽しそうに活動していた。

次に，実際のワークシートよりシェアリングの感想を紹介しながら仮説を検証していくことにする。

〔感想〕

○話し手と聞き手がしっかり通じていないと簡単な図形もかけないんだなあと思った。話す人，聞く人お互いがしっかり通じ合って初めて，会話というものが成り立つのかなと気づきました。

○ゲーム感覚で授業ができたのでわかりやすかったし面白かった。スピーチ学習のこともわかった。

○話し手をして,「話す」ということは聞き手のことも考えてスピーチしなければならないから難しいと思った。

○今日の授業で「話すこと」「聞くこと」の大切さがわかりました。

○他人に自分の気持ち（言いたい事）をうまく伝えるのは難しいと改めて思った。だから聞き手と協力したい。

○話す時に聞き手の描くスピードにあわせてやれば，時間内に説明できたと思う。

○人の言っていることに耳を傾けるようになったし，理解しようとするようになった。

○ゲームは楽しかった。またしたい。ちゃんとスピーチできるようにしたい。

○スピーチ学習のことが初めてよくわかった。

〔仮説の検証〕

グループそれぞれ楽しく活動しながらも，「話すこと」「聞くこと」の大切さや難しさを実感した感想が多く見られる。また「話すこと」と「聞くこと」は表裏一体で，伝え合うためにはお互いを思いやることが重要だと気づいている。すなわち「話し手」は「聞き手」のことを意識して，細かくゆっくり話さなければならないとあるし，聞き手は，人の言っていることに耳を傾け理解しようとする意識が大切なことに気づいている。そして，話し手も聞き手も観察者もお互いに話したり質問ができる３回目が，一番図形が描きやすく一致しやすいと述べている事から，生徒は「伝え合う意義」もつかんだものと判断できる。

更に，感想の中に，スピーチ学習のことがよくわかった，ちゃんとスピーチできるようにしたい，とあるので単元指導の目標や流れをつかみ，今後の学習に見通しを持って意欲的に活動しようという気持ちになった生徒がいることがわかる。したがって，導入に，エクササイズ学習を取り入れたことは，意欲的に学習に取り組む上で効果があったといえるのではないかと考える。

写真　　エクササイズ活動の様子

２　具体仮説２の検証

「話すこと･聞くこと」のスピーチ学習の場において，①スキル学習（話し方・聞き方）②スピーチ原稿（話題選定・話材・構成メモ・原稿書き）③発表と学習段階を細分化しきめ細かく指導すれば「話すこと・聞くこと」の総合的な力が身につくであろう。

スピーチ学習の具体的な計画として①スキル学習（２時間）②スピーチ原稿書き（２時間）③発表の場（３時間）と学習段階を分けて指導していった。スキル学習では,「良い話し方」「良い聞き方」のスキル学習を１時間,聞き取りメモを使った聞き取り練習を１時間行った。「良い話し方」と「良い聞き方」のスキルを全員で確認しまとめる事，更にはそれを教室に掲示したことは，単元学習の指導に大変役に立ったと思う。なぜなら，その後の単元学習において，教師の声かけや指示が具体的になり，従って生徒は，傾聴することとしっかり聞くとはどうすることであるかを意識する機会が多くなったからである。もちろん単元学習を終えても掲示や声かけは継続していくつもりである。

原稿を書く段階では，まず，ウェビングによって話題に広がりを持たせ，伝えたい話の中心を決め，スピーチの構成まで１時間で学習した。話す内容の骨組みをしっかりしたことで，実際に原稿を書く作業はスムーズにできていた。その結果３６名全員がスピーチの原稿を完成することができた。これは，急がずに，時間をしっかり確保してあげたことと，事前に生徒の職場体験先を把握し，支援が必要な生徒へも具体的な指導ができた成果であろうと思う。全員の原稿がそろった段階で実際の発表に臨めた事は非常にうれしいことである。図２はウェビングによる話題選定とスピーチの構成メモである。

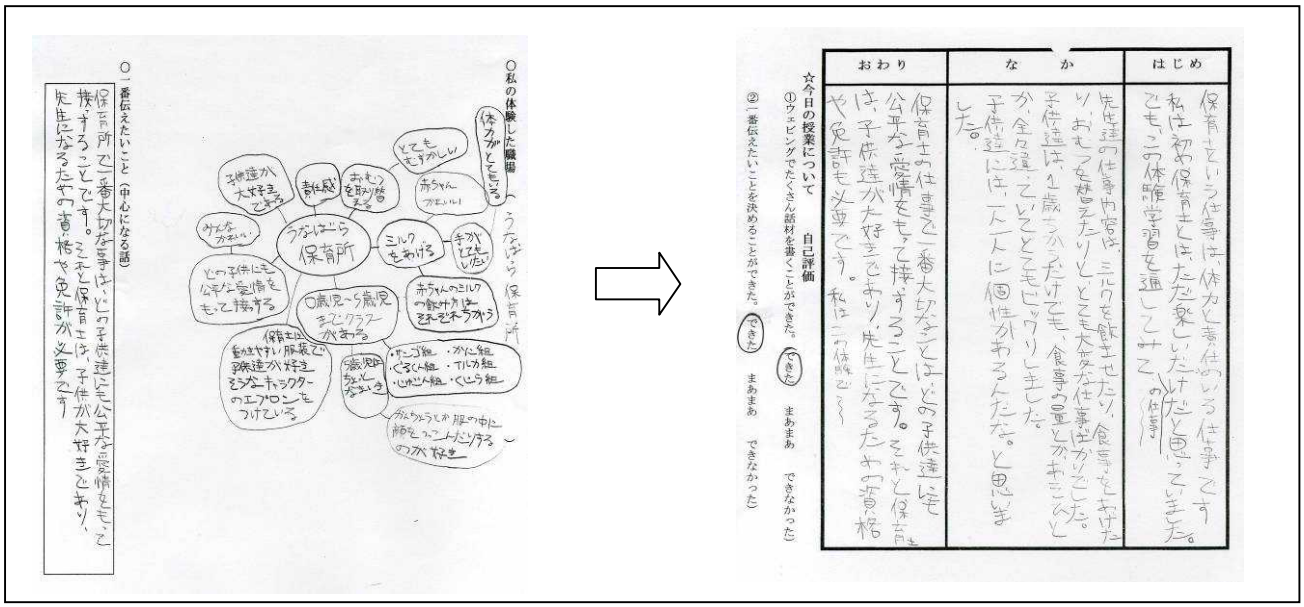


図２　ウェビングによる話題設定とスピーチ構成メモ

次に，アンケートの結果を見ながら，仮説２を検証してみる。まず「一番何を伝えたいかわかりますか」「事実と意見を聞き分けることができますか」という問いに対しては，事前では「よくわかる」「よくできる」という割合が低かったのが，終了後は両方とも「よくできる」の割合が２倍以上になっている。また「人の話を聞くときメモを取っていますか」という問いでは,「きちんと取る」が全くいなくて「時々取る」生徒も限られていた。それが，終了後は「時々取る」生徒を含めて６割近くの生徒が，聞き取りメモを意識するようになっている。

これらのことから①スキル学習②スピーチ原稿③発表と学習段階を細分化し，きめ細かく指導したことは「話すこと・聞くこと」の総合的な力をつけるのに効果はあると考えてもよいと思う。

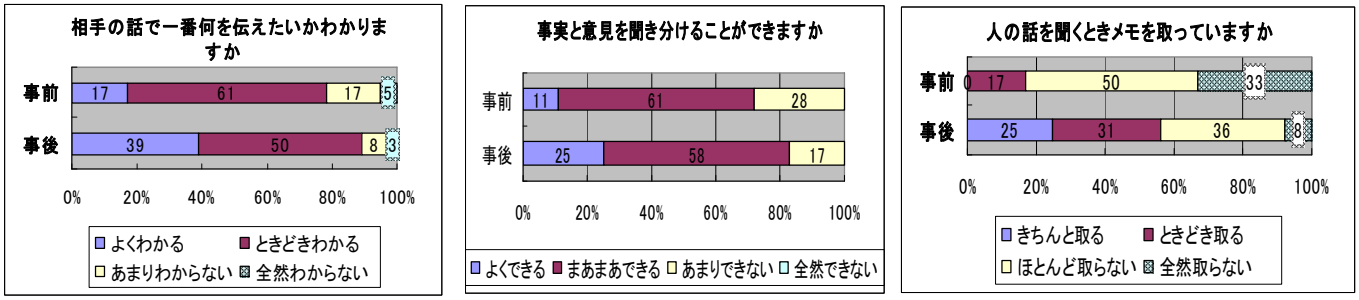
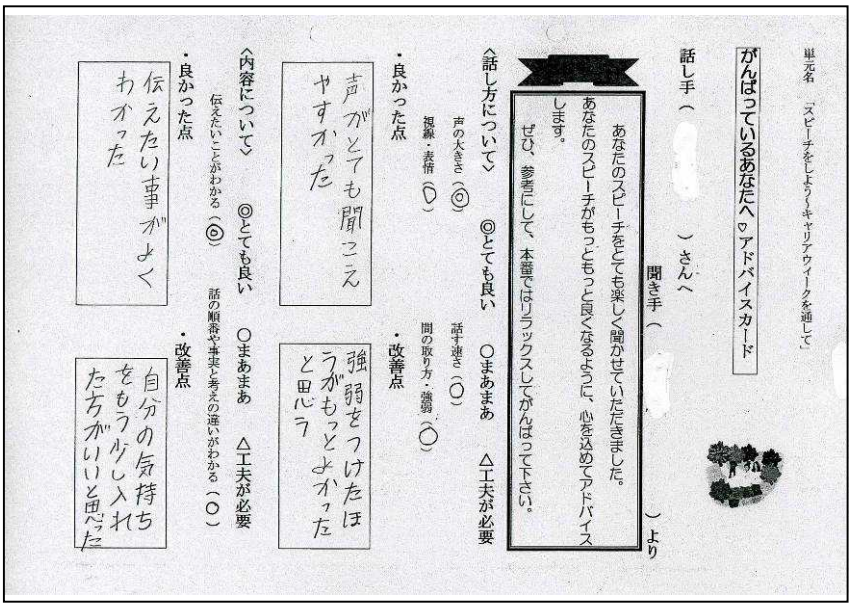


図３　「聞くこと」のアンケート結果

３　具体仮説３の検証

「話すこと･聞くこと」のスピーチ学習の発表の場において，グループ内発表→練り直し→本番（学級全体）と段階を追って実施し，自己評価・相互評価でよさや成長を認め合う評価をすれば，「豊かに話す力」「積極的に聞く力」が育まれ，自分の考えや思いを意欲的に伝え合う力が高まるであろう。

スピーチ学習の発表は，まず４人グループでお互いに練習しアドバイスし合った。図４はその時のアドバイスカードである。生徒一人ひとりは本番のみの１回限りでなく，自分のスピーチのよい点や改善点を実際に言葉で述べてもらい，自分のスピーチ原稿の練り直しを行った。それにより，原稿も話し方もより工夫することにつながっていった。グループ内スピーチ終了後の感想を紹介する。



○自分のスピーチの良さや改善点がわかったので，これからはみんなからアドバイスされたことを生かしたいです。

○みんなそれぞれいい所があった。本番はみんな改善していけたらいいなと思う。

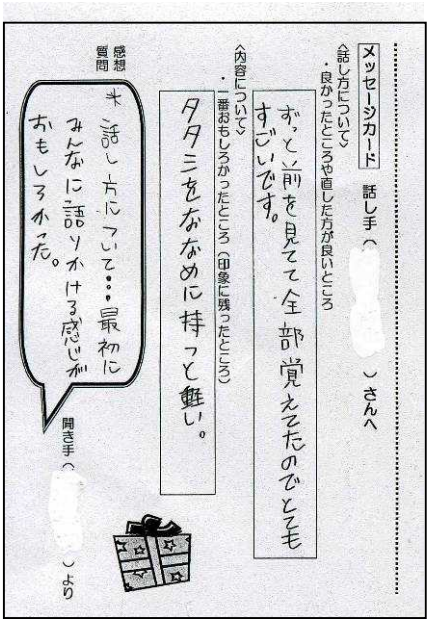
このように，聞き手は，良いところと改善点を意識しながら聞くので，より集中し積極性が出てくる。話し手は，言葉によってアドバイスをもらい，スピーチを向上させることができた。

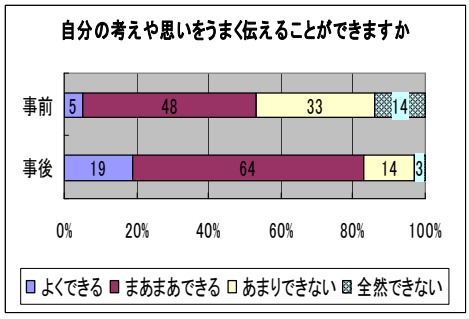
図４　アドバイスカード

全体スピーチ会は，各グループから代表１名を選んでもらい，合計９名を４名と５名に分けて２回実施した。その時，話し手は原稿ではなくキーワードメモを持ってスピーチをし，聞き手は聞き取りメモを使いながら聞き手からのメッセージを発信できるような授業展開を行った。それによって，話し手は，原稿によらない自分自身の生きた言葉を発することを意識してくれ，自信を持ってスピーチをしていた。また，聞き手も話し手の一生懸命さに十分応えてくれた。聞き取りメモを利用しながら心をこめたメッセージカードを書き，質問・感想タイムでは２回の全体スピーチ会で，のべ４０人もの生徒が，話し手へメッセージを発信できた。うれしかったのは，１回目の感想で「次は聞き手として感想メッセージをぜひ言いたい」と書いていた生徒が，２回目の質問・感想タイムで，自分から手を上げて感想を発表してくれたことだ。

アンケートの結果を見ると，「自分の考えや思いをうまく伝えられるか」「人の話を聞いて，感想や質問をするか」という問いでは，「よく・まあまあ」と答えた生徒が合わせて約２倍になっている。生徒は，自信を持って楽しみながら話したり，話し手のよさに注目し，自分自身とも比較しながら聞いたりしている様子がわかる。

これらのことから，スピーチを聞きっぱなしでなく，よさや成長を認め合う相互評価・自己評価をすることによって，話し手も聞き手も成就感を味わい，「豊かに話す力」と「積極的に聞く力」が育まれ，伝え合う力を高めることができるとわかった。





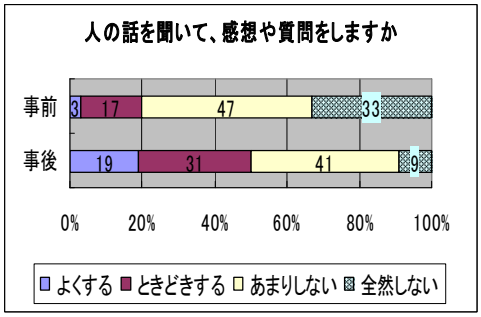


図５　メッセージカードとアンケート結果

Ⅸ　研究の成果と今後の課題

１．研究の成果

(1)　「話すこと・聞くこと」「伝え合う力」に関する多くの理論や先行研究に触れ，研究したことで，「伝え合う力」を高めるために，身につけさせたい能力や態度などを自分なりに定義づけることができた。

(2)　「良い話し方」と「良い聞き方」のスキル学習を行い教室に掲示したことにより，生徒が日頃から意識し特に人の話を傾聴しようとする態度がよくなりつつある。

(3)　原稿を書く学習で，ウェビング・スピーチ構成の手順シート・文章事例などワークシートを工夫し，ティームティーチングで支援が必要な生徒にきめ細かく対応したことにより，クラス全員が原稿を書き上げることができた。

(4)　スピーチの発表の場において，質問・感想タイムでよさや成長を認め合う交流をしたことにより，笑顔と活気に満ちた会となり，話し手も聞き手も伝え合う楽しさを味わうことができた。

２．今後の課題

(1)　人前で話すことに消極的な生徒への具体的な支援の工夫と，テーマに沿って要点を押さえた聞き取りメモのワークシートの開発と指導の工夫。

(2)　年間を通した意図的・計画的なスピーチ学習の計画。

(3)　「伝え合う力」を高めるための実践の場の計画と，テーマの在り方を検討すること。

３．終わりに

早いもので，研究教員としてスタートしてからあっという間に半年が過ぎてしまいました。当初は何をどうしてよいか分からず，時間ばかりがすぎてゆき，自分の勉強不足にはがゆさとあせりばかり感じていたものです。

今回，時間的ゆとりと静かな環境，そして豊富な研究資料に恵まれ，有意義な日々を過ごさせていただきました。この半年間，研究してきたことや考えたことは，私自身の教員としての指針として常に心にとめ，今後も授業研究や生徒理解に努めていきたいと思います。

最後に研究を進めるにあたって，ご指導，ご助言をして下さいました沖縄県立総合教育センター研究主事の新里文隆先生，当研究所所長の長崎光義先生，研修係長の上原等先生に深く感謝申し上げます。

また，今回，研究の機会を与えて下さいました真志喜中学校校長の川上啓一先生，ならびにご理解とご協力をいただいた真志喜中学校職員のみなさまにも深く感謝申し上げます。

さらに，縁あって，研究教員として共に学びあった松田勝徳先生，いつも笑顔で励まして下さった研究所職員のみなさん，大変お世話になりました。

〈主な引用文献と参考文献〉

・文部省　『中学校　学習指導要領　　国語』　　平成１０年９月
・文部省　『中学校学習指導要領　　解説　―国語編－』　　平成１１年９月
・安居總子著　『中学校の表現指導　聞き手話し手を育てる』　　国語研究会　　１９９４年
・小森茂編集　『新小学校　教育課程講座　国語』　　ぎょうせい　　１９９９年
・河野庸介　相澤秀夫　『新中学校　教育課程講座　国語』　ぎょうせい　１９９９年
・高橋俊三編著　『音声言語指導のアイデア集成　４　中学校』　明治図書　　１９９６年
・吉澤克彦編著　『中学校学級づくり　構成的グループエンカウンターエクササイズ５０選』　明治図書　２００４年
・河野庸介編著『中学校新国語の授業モデル　１「話すこと・聞くこと」編』　明治図書　２００１年
・大阪市教育センター　『音声言語を中心としたコミュニケーション能力の育成』　　２００４年